オピニオン

活性化担う人材育成

知を生かす 地域と大学

山陽学園大 地域マネジメント学部

月1回掲載

「バスは自動車より環境に良い。○か×か？」

1日、岡山電気軌道岡南営業所（岡山市北区岡南町）。バスの車内で出されるクイズに子どもたちが楽しそうに挑戦していた。

出題者は、山陽学園大（同市中区平井）地域マネジメント学部3年生の長谷川久典さん（21）と平松芹奈さん（20）。平松さんが「答えは○」と発表すると、正解した子どもたちから歓声が上がった。バスは自動車よりも多くの人を一度に運べることを踏まえ、平松さんは輸送量当たりの二酸化炭素の排出量はバスの方が自動車よりも6割ほど少ないことなどを説明した。

イベント名は「バス博士になりにいこう！」。マイカーの普及などで大きく利用が減っている公共交通・路線バスへの関心を高めてもらおうと、2人と同社が企画した。

会場では、重さ14㌧の車両を引っ張る「綱引き」なども実施。朝日塾小（岡山市）の4年片山豪君（9）は「環境に良いと知り、いろいろなバスに乗りたいと思った」と話していた。

山陽学園大が、地域活性化などを担う人材を育てる「地域マネジメント学部」を新設したのは2018年度。カリキュラムでは1年生は岡山市内の商店街や住宅街に、2年生は真庭市、岡山県和気町に出向き、関係者に聞き取りを行うフィールドワークを実施する。

3年生は、メインとなる「地域マネジメント実習」。同県内の企業、団体で約1カ月の就業体験を行い、課題の解決策を提案し、実践する。4年生はそれまでの学びを踏まえてテーマを設定し、卒業研究を行う。

指導する中村聡志教授は「『地域』そのものがキャンパス。新型コロナウイルス禍で状況は良くないが、できる限り地域に足を運び、活性化のお手伝いをしたい」と話す。

本年度、地域マネジメント実習に取り組むのは、長谷川さんと平松さんを含めた38人。岡山電気軌道のほか、岡山県や営公学生服（岡山市）など16社・団体で「勤務」した。

フィールドワークには教員が付き添う。実習では節目節目で、教員が学生から進ちょく状況を聞き取り、必要に応じて指導。調査、分析、解決策の立案、実行までを一貫して担う能力を身に付けるためのサポートに力を尽くす。

来年3月には学部1期生が大学を巣立つ。中村教授は言う。「自治体や企業への就職だけでなく、起業などあらゆる場面で活躍できる人材を輩出することで、地域貢献につなげていきたい」

（西橋由大）

「バス博士になりにいこう！」でクイズを出す平松さん（左）と長谷川さん＝1日、岡山電気軌道岡南営業所

バスと綱引きをする子どもたち＝1日

岡山電気軌道観光課 オフィスマネジャー　大谷祐司さん

柔軟なアイデア次々

イベント「バス博士になりにいこう！」に学生2人と携わった岡山電気軌道の大谷祐司・観光課オフィスマネジャー（42）に感想を聞いた。

◇

活力あふれる2人は柔軟な発想で、次々にアイデアを出してくれた。バスを身近に感じてもらうため、私たちも乗り方教室を開いているが、今回はより気軽に親しめる形になったと感じている。

7月31日と8月1日の2日間で参加してくれた親子は60人。2人は準備の段階から最後まで奮闘してくれた。子どもたちはとても楽しそうで、保護者からも「子どもの喜ぶ顔が見られて良かった」との声が寄せられた。

路線バスは近年、利用者が減るなど、地域の公共交通機関を取り巻く環境は厳しい。その存続には多くの人にバスに親しんでもらうことが欠かせない。今後も幼少期から公共交通に興味を持ってもらうイベントを企画していきたい。

町家留学 プログラム作り

倉敷・大原本邸で業務体験

「語らい座　大原本邸」で、スタッフ（右から2人目）と一緒にアンケート結果を分析する3人の学生＝7月20日

山陽学園大地域マネジメント学部3年生が行う「地域マネジメント実習」。倉敷市美観地区の交流施設「語らい座　大原本邸」では、学生3人が6月下旬から約1カ月間、スタッフの業務を体験した。

大原本邸では、近代倉敷の礎を築いた実業家・大原孫三郎（1880～1943年）ら歴代当主の足跡をたどる品々を展示しており、年間約3万人が訪れる。

新たな魅力づくりに向け、施設は、さまざまな「学び」を通じて人間力を養ってもらう高校生向けの学習プログラム「くらしき町家留学」（半日～2泊3日程度）を計画。3人もプログラム作りに参画した。

今夏からの本格導入に向け、3人は観光客ら約200人に、訪問目的や修学旅行に期待することなどを尋ねるアンケートを実施。周辺の文化施設を巡るクイズスタンプラリーといったアイデアを出した。大原本邸の山下陽子館長（64）は「今回採用したアイデアはなかったものの、アンケート結果から『学び』だけではなく、参加者が友情を深めるようなイベントが必要という認識を持てた。来年の実習生と内容をさらに磨きたい」と話した。

ＡＮＡクラウンプラザホテル岡山（岡山市）の実習では、プランドのアメニティー品をそろえた学生向け宿泊プランなどを提案。商品化が検討されているという。岡山県和気町では写真共有アプリ・インスタグラムのアカウントを開設、地元の魅力をＰＲしている。

©山陽新聞社　無断複製転載を禁じます。